

第 62 回日本集団災害医学会セミナーを開催しました(2016/10/16)

テーマ：災害医療、トリアージ（START 法・PAT 法）、病院での多数傷病者受け入れ
場所：東北大学医学部 6 号館（宮城県仙台市）

2016 年 10 月 16 日(日)、東北大学医学部 6 号館において第 62 回日本集団災害医学会セミナーが、災害医学研究部門災害医療国際協力学分野 佐々木宏之助教の企画で開催されました。日本集団災害医学会セミナーは、災害医療に携わるあらゆる職種を対象に、災害医療の基礎知識と技術の習得を目的とした、いわば「災害医療に関する入門教育コース」です。1997 年に開始され今回で第 62 回を迎えましたが、東北での開催は約 3 年ぶり、その前は 2006 年の仙台開催までさかのぼり、震災で大きな被害を受けたにもかかわらず、東北地方は大きな空白地域となっていました。佐々木助教は 2014 年の第 38 回でプロバイダとなり、2016 年 1 月、第 56 回でインストラクターを取得しました。

当日は全国から 20 名のセミナー委員・インストラクターが集結し、主に東北地方からの受講者 30 名が災害医療の基礎（座学）、多数傷病者のトリアージ法（START 法・PAT 法/実技）、病院での多数傷病者受け入れ机上シミュレーションを学習しました。トリアージ実技では、傷病者を模して横たわる多数の受講生に対し、トリアージを行う受講生が真剣なまなざしで病状把握、トリアージに努めていました。机上シミュレーションでは、東日本大震災の経験も踏まえ、病院機能を維持していくためにはどんな関係機関と連携を取ればよいかなど、活発な討論が行われました。当研究所からは、江川新一教授（災害医学研究部門）が受講しました。

一般医療従事者を対象とした成人教育型の災害医療教育コースは国内にあまりないため、学会事務局・受講生から東北大学での継続開催を期待されました。一般医療従事者の災害医療啓発を進め医療機関の災害対応力向上に寄与できるよう、来年度以降も継続開催を目指します。



傷病者の呼吸状態を観察する江川教授



多数傷病者のトリアージを行う受講生



机上シミュレーションでは受講生が
真剣なまなざしで討論



最後にインストラクター・受講生全員で
記念撮影)